



# BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 35 号

平成 29 年 2 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

03-3918-7311 (代)

bsr\_lab@mail.tais.ac.jp

## 「蒼生の福」をめざして

大正大学 仏教学部 仏教学科

准教授 堀内規之

### 目次

1 頁：巻頭言

2 頁：BSR トピックス

4 頁：BSR 図書室 / 今後の予定

蒼生（そうせい）とは多くの人々・民衆という意味であり、その幸福という意味合いが「蒼生の福」という言葉です。この言葉は、およそ千二百年前弘法大師空海が、師匠である恵果和尚（けいかかしょう）からいただいた言葉です。弘法大師は、中国に渡り恵果和尚より真言密教を授かりました。最晩年の恵果和尚は最後の力を振り絞って、真言密教のすべてを弘法大師に伝授され、その直後にお亡くなりになりました。恵果和尚は、早く郷国すなわち日本に帰って、天下に真言密教を弘め、人々の幸福を増せと告げられています。この恵果和尚からの言葉、「蒼生

の福を増せ」は弘法大師にとって最大の使命、ミッションとなったわけです。弘法大師は人々の幸福を増すことに、これ以降の後半生を捧げていったのです。

四国の灌漑用水である満濃池の修築、高野山における数多くの花と灯明を捧げ、人々の幸福を祈念する万灯万花会という法要の勤修、さらには綜芸種智院（しゅげいしゅちいん）という、身分に関係なく誰もが学べる完全支給制の学校の開設等々、人々の幸福を増すための事業を数多く弘法大師はおこなっています。

大正大学も弘法大師が目指された「蒼生の福」を増さんがため、また

地域社会との交流を目指して、聖観自在菩薩をご本尊にお迎えし、すがも鴨台観音堂を建立致しました。

現在、毎月第三土曜日には花会式（はなえしき）という法要を勤修しています。大正大学の設立宗団である天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗、そして時宗を加えた五つの宗派に所属する学生が中心となって担当し、それぞれの宗派の法要をおこなっています。

読者の皆様には、若い青年僧侶が「蒼生の福」が増されんことを祈念致します花会式に、是非ご参列いただきたくご案内申し上げます。

## BSR トピックス

## 地域寺院倶楽部 発足

## ◆『地域寺院』

『地域寺院』という小冊子をご存じでしょうか。

これは、月刊『地域人』の付録として平成 28 年 6 月に発刊された月刊の情報誌です。大正大学地域構想研究所・BSR 推進センターで編集しています。

編集に携わっているのは、当通信でもおなじみの高瀬顕功助教と小川有閑主任研究員、そして栗田順一編集長です。この 2 月で第 9 号まで発行しています。



【創刊号表紙】

毎号、次の 6 つのコンテンツが掲載されています。

- ・まちに聞く、まちを拓く
- ・お坊さんに期待すること
- ・尋坊帖（じんぼうちょう）
- ・超高齢社会に生きる
- ・言いたい、聞きたい、ホントのトコロ
- ・知っておきたい寺院会計

では、具体的に第 9 号の内容をご紹介します。

まず、「まちに聞く、まちを拓く」というコーナーです。このコーナーは、地域に寺院を開放して行っている取り組みの事例を取り上げています。今号では、金剛院様（群馬県富岡市、天台宗）の「朝活読書会 <てらよみ>」という、月に 1 回開催している出勤前の時間を有効利用した読書会を紹介しています。このコーナーでは、毎回、「教訓」としてその取り組みから学ぶものを 3 点あげています。金剛院様の取り組みからは、

- 自分がやりたいことを始めるのが長続きのコツ。
- 毎月定例で時間を決めれば、それに合わせたライフスタイルに。
- 地域に出れば、地域から来る。外に出ることは、それだけの価値がある。

とまとめています。

次は、中外日報社特別編集委員である北村敏泰氏に僧侶への期待を書いていた「お坊さんに期待すること」というコラムです。今号では、「いのちの専門家として積極的に寄り添い、対応を」と題し、医療の中での「いのち」の問題に僧侶がどうかかわるべきかを、少々辛口の視点で書いています。

次の「尋坊帖」は、次世代を担う若い僧侶の皆さんへのインタビューです。創刊号の全日本仏教青年会理事長東海林良昌師から始まり、大正大学設立 4 宗派はもとより、曹洞宗、臨済宗、浄土真宗本願寺派等様々な宗門の青年僧侶の団体、いわゆる青年会の代表者にご登場いただいています。今号は全国日蓮宗青年会会長 藤井教祥師です。「苦しみの絶えない現代だからこそ本物の僧侶である覚悟が必要」、と現代社会の課題の中で僧侶がどう向き合っていくかを、団体の代表の立場、そして一人の僧侶としての立場からご自身の経験を踏まえ語っていただいています。

「超高齢社会に生きる」は、東大病院、東京都健康長寿医療センター研究所に籍を置く岡村毅医師の連載です。今号のテーマは「認知症があってもよりよく生きるために」です。岡村先生は、高齢者のこころの健康を専門領域とし、当 BSR 推進センターと研究をともにしており、宗教の重要性を感じているそうです。

「言いたい、聞きたい、ホントのトコロ」は、いわゆる覆面座談会です。名前など個人が特定できることは伏せて、なるべく本音を聞きだしていこうという企画です。今号は「マル秘！葬儀屋さんのこわ〜い話」①（全 3 回の 3 回目）です。「葬儀屋さんあるある」という内容で盛り上がります。中には僧侶にとっては耳の痛い話もありますが、期待の裏返しとしてお読みいただきたい、としています。以前の号では、●関東地方の寺庭婦人 ●兼業している地方寺院の住職・副住職 ●月参りが慣習となっている大阪在住のお坊さん の座談会を行いました。毎回 3 名の方に苦労話、ちょっと笑ってしまうエピソードなどをお話いただく人気コーナーです。

「知っておきたい寺院会計」は、寺院会計について、具体的な実務を紹介する連載です。担当しているのは、税理士としてもご活躍している茨城県石岡市 真言宗智山派阿弥陀院のご住職河村照円師



【第 9 号表紙】

です。多くのご住職が疑問に思っている寺院会計のカユイところに手が届く内容を書いていただいています。

そして巻末には毎号「編集後記」が記されます。編集者の率直な感想、編集への思いが書かれています。（M）

## 『地域寺院』

仕様 ◇判型：A5 版（210mm×257mm）

◇オールカラー、16 頁

制作 (株)ティー・マップ

発行 大正大学出版会

## ◆【地域寺院倶楽部】

高齢化、少子化、過疎化、家庭の崩壊、自然災害、そして人心の荒廃。日本社会は大きな変革の真っただ中にあります。信仰心の希薄化や宗教への無関心が指摘される昨今ですが、それでも、この殺伐とした社会のなかで、仏教文化に関心を持ち、その教えと救いを求めている人は多くいます。しかし、僧侶は、寺院は、その声にどれだけ応えられているでしょうか。

このような寺院の課題・危機がさげられる今日、日本各地で奮闘している僧侶がまだまだたくさんいらっしゃいます。仏教の力を信じ、寺院や僧侶に期待を寄せてくださる方も少なくありません。これらを紹介し、寺院・僧侶の在り方を考えていくのが『地域寺院』です。

『地域寺院』は創刊以来、多くの読者から好評をいただ

ていますが、より手に取りやすい方法はないかとの要望もありました。そこでこの度、この『地域寺院』を会報としてお届けする「地域寺院倶楽部」を発足することとなりました。

寺院は“社会の資源”ともいわれます。いま、この資源を地域社会のために活かし、なにか行動を起こさなかったら、それこそ近い将来、多くの寺院は“消滅”してしまうかもしれません。『地域寺院』を通して、現代社会における寺院の可能性をともにお考えいただけたら幸いです。

「地域寺院倶楽部」は、大正大学地域構想研究所・BSR 推進センターを拠点とし、そのような志ある皆さまとともに、これからの地域社会と寺院の在り方を考え提案していき、そのための情報発信・相互交流の場を目指します。みなさまのご入会・ご参加をお待ちいたします。（栗田編集長談）

## ～地域寺院倶楽部～

## ◆会員特典

- ① 毎月、会報誌『地域寺院』を送付
- ② 年に 1 回開催されるシンポジウムに無料招待  
『地域寺院』で紹介した方を登壇者に迎え、日々の活動について、より詳細かつ実践的なお話を伺う予定です。
- ③ 会員同士の交流・研鑽のためのセミナー開催  
※不定期開催  
例) 寺院会計のコツ  
お寺を使った認知症予防 など

## ◆年会費 5,000 円

## ◆お申込み

大正大学 HP の中、地域構想研究所の箇所に「地域寺院倶楽部 BSR」のコンテンツがあります。そこに申込フォームがありますので、必要事項を入力して送信ください。

または、FAX（03-5394-3093）あるいは e-mail（[j.ishida@t-map.net](mailto:j.ishida@t-map.net)）に、「地域寺院倶楽部入会希望」と標記し、氏名（ふりがな）、寺院名、住所、電話番号、e-mail を明記のうえ送信ください。

※ご連絡いただきましたら、会費請求書、振替用紙、『地域寺院』創刊号から最新号を郵送します。

地域寺院倶楽部 URL

<http://chikouken.jp/about/bsr>

お問い合わせ先

大正大学事業法人 (株)ティー・マップ

e-mail [j\\_ishida@mail.tais.ac.jp](mailto:j_ishida@mail.tais.ac.jp)

FAX 03-5394-3093



## BSR 図書室

村井幸三 著

### お坊さんが隠すお寺の話

新潮社 2010 年、734 円(税込)

法外なお布施や戒名料ばかりを要求する一部住職に、檀家さんの我慢は限界寸前。結果、仏教に頼らない葬儀が急増、さらに過疎化や後継者難の影響もあって、地方の末寺は崩壊の危機に…。自業自得の日本仏教に、再生の道はあるのか…。本のタイトルと同じように過激な表現が続きます。

本書著者は、官庁、マスコミ業界に身を置いていた方です。30 年程前より仏教史の研究に没頭したという、言わば「仏教ファン」で、個人的に僧侶とも親交があるようです。

本書では、第 1 章から第 4 章までは、現代の寺院が抱える問題点・課題、そこに繋がるまでの歴史、そして寺院の

危機等が書かれています。

第 5 章は「お寺に未来はあるか」として、寺院再生の方法が提案されています。

どちらかと言うと否定的・侮蔑的に使用されている「葬式仏教」という言葉を逆にとり、「きちんと葬式仏教をすることでしか日本仏教に未来はない」ということを強調しています。社会からの信頼を取り戻すために、今一度、葬儀において仏教が果たす役割とはどういうことなのか、そのことを真剣に考えるべきとしています。全体的に批判的ではありますが、寺院のおかれた厳しい状況を考慮した上で、寺院・僧侶に期待していることも読み取れます。

葬儀という場は、身近な人の「死」に直面することにより「生」を見直す機会となります。このことを踏まえ、真摯な姿勢で臨むことが僧侶（仏教者）の社会的責任であると考えます。(M)



## 今後の予定

2月18日(土) 11時～12時  
9時～13時

13時～15時

3月18日(土) 11時～12時  
9時～13時  
13時～15時

花会式(浄土宗)

あさ市

お坊さんカフェ「僧話花」

鴨台観音堂前

南門 けやき広場

※埼玉県吉見町のいちごを販売します。

3号館 1階

花会式(春休み特別企画)

あさ市

お坊さんカフェ「僧話花」

鴨台観音堂前

南門 けやき広場

3号館 1階



### 巻頭言執筆者 紹介

堀内 規之 (ほりうち のりゆき)

大正大学 仏教学部 准教授

大正大学 仏教学部 卒業

大正大学大学院 文学研究科 修士課程 修了

同 博士課程 単位取得満期退学

平成 20 年 11 月 博士(仏教学) 学位取得

専門は真言密教史。真言密教を中心とした日本密教について、院政期に活躍した仁和寺の濟運(さいせん)を視点として空海以降の真言密教がどのように展開・発展したかを研究する。また NPO 法人ひつじ大学で理事を務め、文化・教育振興、地域の活性化等を目的とした社会活動を行っている。真言宗豊山派所属。

※BSR 通信は、本学関係宗派の研究機関、仏教系新聞 各社、当該分野関係研究者および本学各学科などに配付しています。また、本学ホームページ「地域・社会貢献、鴨台プロジェクトセンター」の箇所にて公開しています。

### 巻頭写真

青年僧侶が勤める花会式(真言宗豊山派担当)